

韓国慶尚北道のイナワラ中のミネラル含量

矢野史子¹⁾・福井武志¹⁾・芦田欣也¹⁾・矢野秀雄¹⁾・
川島良治¹⁾・カルロス・ラミレス²⁾
(¹⁾京都大学農学部*, ²⁾ラプラタ大学獣医学部**)

Mineral Concentrations in Korean Rice Straw Samples

Fumiko YANO¹⁾, Takeshi FUKUI¹⁾, Kinya ASHIDA¹⁾, Hideo YANO¹⁾,
Ryoji KAWSHIMA¹⁾, and Carlos E. Ramirez²⁾

¹⁾Faculty of Agriculture, Kyoto University and

²⁾Faculty of Veterinary Science, University of La Plata

A field survey was carried out in Korea to asses the mineral composition of rice straw, which is a common feedstuff for cattle and goat in Korea, and to compare with rice straw in other Asian countries.

According to NRC tables, Korean rice straw provided adequate amounts of Mg, Ca, K, S, Mo, Mn and Zn. Phosphorus, Na, Cu and Se were deficient in 93, 70, 67 and 33% of samples, respectively. On the other hand, high amount of Fe in rice straw may impair Cu absorption by livestocks.

東南アジア、中国、韓国を含むアジア地域では、牛、水牛、山羊等の反芻家畜は、小規模な農業経営のもとで飼育され、増体、泌乳、繁殖などの能力は十分に発揮されていないのが現状である。

韓国では約280万頭の牛が飼育されているが、その多くが稻わら、野草などの農業副産物を主要な飼料源としており、低栄養、特にミネラル栄養のアンバランスが予想される。

本研究は、アジア地域の家畜のミネラル栄養状態の調査研究の一環として、インドネシア^{1,2)}、タイ³⁾に続いて、韓国の稻わら中のミネラル含量について検討した。

実験方法

1990年6月に、韓国中南部慶尚北道の大邱市近郊の農村地帯5ヶ所30地点から、30サンプルの稻わら

*所在地：京都市左京区北白川追分町（〒606-01）

**Address : UNLP. CC296-1900 La Plata. Argentina

と水田土壤を採取した。

稻わらのミネラル含量は、常法により硝酸・過塩素酸で湿式灰化後、Ca, Mg, Fe, Cu, Zn, Mn, Moは原子吸光度法で、Na, Kは炎光光度法で測定した。又、Pはゴモリ法⁴⁾で、Seは蛍光光度法⁵⁾で測定した。

結果と考察

飼料中ミネラル含量の過不足の判定は、NRCの肉用牛飼養標準⁶⁾に従ったが、Ca, Pの要求量については東南アジア地域の在来牛のデータをもとにした、矢野らの報告³⁾（最少要求量：体重272Kg, 1日当たり増体量0.23Kgの雌牛の値、最大要求量：体重400Kg, 1日当たり泌乳量7kgの乳牛の値⁷⁾）に従った。又、最少要求量以下のものを欠乏とし、要求量の範囲内と、それ以上のものの割合を%で示した。（Table 1, 2）

Table 1. Macro Mineral Concentrations of Rice Straw in Korea

Minerals	Recommended ^a	Concentration ^b	Deficient ^c	Recommended	Beyond ^d
Ca	0.23–0.43(%)	0.33±0.015(%)	3(%)	87(%)	10(%)
P	0.18–0.28	0.14±0.006	93	7	0
Mg	0.05–0.25	0.18±0.006	0	97	3
Na	0.06–0.10	0.09±0.018	70	17	13
K	0.50–0.70	1.49±0.086	0	0	100
S	0.08–0.15	0.13±0.003	0	97	3

a. NRC, 1984 and 1988.

b. Means±S.E. (dry matter basis)

c. Rice straw with mineral concentration less than minimum requirement is expressed as per cent of total sample number.

d. Rice straw with mineral concentration more than maximum requirement is expressed as per cent of total sample number.

Table 2. Micro Mineral Concentrations of Rice Straw in Korea

Minerals	Recommended ^a	Concentration ^b	Deficient ^c	Recommended	Beyond ^d
Fe	50	—100(ppm)	577 ± 28.7(ppm)	0(%)	0(%)
Cu	4	— 10	3.55± 0.36	67	30
Zn	20	— 40	38.2 ± 1.58	3	60
Mn	20	— 50	130.5 ± 12.0	0	20
Mo	—	—	1.30± 0.08	—	—
Se	0.05— 0.30	—	0.07± 0.005	33	67

a. NRC, 1984

b. Means±S.E. (dry matter basis)

c. Rice straw with mineral concentration less than minimum requirement is expressed as per cent of total sample number.

d. Rice straw with mineral concentration more than maximum requirement is expressed as per cent of total sample number.

稻わら中の Ca と Mg は牛の要求量にほぼ見合った含量であり、欠乏値や過剰値を示す稻わらはわずかであった。一方、P と Na は欠乏値を示す稻わらが多く、採取したサンプルの内93%が P 欠乏であった。又 Na 含量も要求量の高値0.1%を越えるものが4点見られたが、70%のサンプルで欠乏値を示した。K 含量は推奨値の0.7%を上回り、K/Ca + Mg 比がグラステタニー発症の指標となる2.2より大きくなるものが83%もあったが、Mg が十分含まれているため Mg 欠乏症の危険は少ないようであった。S 含量はほぼ NRC の推奨値の範囲内であった。

Fe 含量はすべての稻わらで要求量を満たしてはいたが、67%の稻わらで Cu 吸収を阻害するとされる 500ppm⁸⁾ を越えていた。一方 Cu 含量は67%の稻わらで要求量の 4 ppm を下回り、さらに Cu/Mo 比が2:1の推奨値⁹⁾ より低くなるものが37%あった。Se 含量は33%のサンプルで NRC による 0.05–0.30ppm の値を満たしていなかった。なお、Mo, Mn, Zn は要求量を十分に満たしていると考えられた。

以上の結果を、日本の稻わらのデータと、本研究室で行った東南アジア諸地域のデータと比較してみた。なおタイの稻わらは東北タイの2地域（コンケーン県、ヤソトン県）で採取したもの、インドネシアの稻わらは東ジャワで採取したものである。（Table 3, 4）

Table 3. Comparison of Macro Mineral Concentrations of Rice Straw in Asian Countries.

	Korea ^a	Japan ^b	Thailand ^c (K. Province)	Indonesia ^d (Y. Province)
P (%)	0.14	0.13	0.05	0.12
Ca	0.33	0.30	0.23	0.29
Mg	0.18	0.10	0.10	0.13
Na	0.09	0.07	0.16	0.18
K	1.49	1.95	1.32	0.79
S	0.13	0.16	—	—

a. Present data.

b. Standard Tables of Feed Composition in Japan.

c. Yano et al³⁾. d. N. Ando¹⁾

Table 4. Comparison of Micro Mineral Concentrations of Rice Straw in Asian Countries.

	Korea ^a	Japan ^b	Thailand ^c (K. Province)	Indonesia ^d (Y. Province)
Fe (ppm)	577	300	241	865
Cu	3.6	4.1	3	4
Zn	38	47	56	58
Mo	1.3	—	—	—
Mn	130	476	1031	1141
Se	0.07	—	—	—

a. Present data

b. Standard Tables of Feed Composition in Japan

c. Yano et al.³⁾ d. Kumagai et al.²⁾

韓国中南部の農村地帯より採取した稻わらのマクロミネラル含量は、Mg を除いて日本の稻わらのミネラル含量と極めて近い値を示した。韓国の稻わら中の P 含量は大部分が牛の養分要求量を満たしていなかったが、タイ、インドネシアなどの東南アジア地域ではさらに低い値となっていた。Ca はタイの一地域でやや低い含量であったが、ここに示した 4 カ国、5 地域の間では大きな違いはみられないようであった。Mg は韓国とインドネシアで高く、日本とタイで低い値になっていた。韓国産の稻わら中の Na 含量は牛の養分要求量には不足しており、東南アジアの 2 カ国の稻わらと比較しても低い含量であった。

韓国の稻わら中の Fe 含量は高い値であったが、タイ、インドネシアではさらに高い値を示していた。Cu 含量はインドネシアを除いて、牛の養分要求量に対しては総じて低い値であった。稻わら中の Zn 含量は韓国産のものより他の国の方が高い傾向であった。又、Mn ではさらにその傾向は明らかであり、日本、インドネシアでは韓国産の稻わらの 3-4 倍、タイ産のものでは韓国産の 8 倍前後の値となっていた。

これらの結果から以下のようなことが考えられた。

韓国中南部の農村地帯より採取した稻わらのみを飼料源として用いる場合には P、Na を補給する必要がある。また Cu については欠乏状態に加えて、稻わら中の Fe 含量の平均値が Cu 吸収を阻害するとされる 500ppm 以上であることからも Cu の補給など、注意を払う必要がある。特に Fe 含量は平均値ではタイ国の Y 地区やインドネシアの稻わらの値 800-1000ppm よりは低いものの、地域によっては許容限界量の 1000ppm を越えるサンプルがあるので、今後調査地点を増やし、さらに土壌との関係も検討する必要がある。

文 献

- 1) 安藤直樹 (1987) 京都大学農学部 卒業論文
- 2) KUMAGAI, H., N. ISHIDA, M. KATSUMATA, H. YANO, R. KAWASHIMA and J. JACHJA (1990) Asia-Australian J. Anim. Sci., 3 : 15
- 3) 矢野秀雄、花井淳一、西脇 靖、川島良治 (1990) 微量栄養素研究, 7 : 85
- 4) GOMORI, G. (1942) J. Lab. Chem. Med. 27 : 955
- 5) WATKINSON, J.H. (1966) Anal. Chem. 38 : 92
- 6) National Research council (1984) Nutrient Requirement of beef cattle. National Academy Press, Washington, D.C.
- 7) National Research council (1988) Nutrient Requirement of dairy cattle. National Academy Press, Washington, D.C.
- 8) BREMNER, I., M. PHILLIPPO, W.R. HUMPHRIES, B.W. YOUNG and C.F. MILLS (1983) Trace elements in animal production and veterinary practice. Brit. Soc. Anim. Prod.
- 9) MILTIMORE, J.E. and J.L. MASON (1971) Can. J. Anim. Sci. 51 : 193